

## 第 14 回 SGRA カフェ

### 「国際的観点から見た日本の新型コロナウイルス対策」

主 催	渥美国際交流財団関口グローバル研究会 (SGRA)
日 時	2020 年 9 月 19 日 (土) 日本時間 15 : 00 ~ 17 : 00
会 場	渥美財団ホール & オンライン (Zoom)
開催方法 参加費・定員	今回は渥美財団の会場とオンライン Zoom を繋ぎ、リアルとバーチャルを組み合わせ て開催します。参加費無料。定員：会場参加 15 名 / オンライン参加 100 名
言 語	日本語
司 会	尹 在彦 一橋大学大学院 国際関係論専攻
概 要	<p style="text-align: center;">《趣旨》</p> <p>新型コロナウイルス(COVID-19)は世界を席卷し、各国は感染拡大防止と社会経済活動の両立を目指して試行錯誤を繰り返しています。日本でも一旦終息に向かうかに思われた感染も再び勢いを増し、先行きの不透明感は深まっています。一方で、新型コロナウイルスについての知見、研究成果も蓄積されつつあります。</p> <p>今回の S G R A カフェでは、国立国際医療研究センター国際感染症センター長の大曲貴夫先生をお招きして新型コロナウイルスとはなにか、日本の新型コロナウイルス対策の特徴と現状についてのお話を伺うと共にアジア各国からのレポートを交えて、今世界で何がおこっているのか、そしてどのように向き合うべきかを考えます。</p> <p>更に「感染症とリスクコミュニケーション」、「防疫の国際協力」等の議論も行いたいと思います。</p> <p style="text-align: center;">《構成》</p> <p style="text-align: center;">【第 1 部】 講演</p> <p>「国際的観点から見た日本の新型コロナウイルス対策」 大曲貴夫 (おおまがり のりお) 国立国際医療研究センター国際感染症センター長</p> <p style="text-align: center;">【第 2 部】 各国レポート</p> <p>韓 国 : 金 雄熙 仁荷大学国際通商学科教授 (1996 渥美奨学生)</p> <p>台 湾 : 陳 姿菁 開南大学副教授 (2002 渥美奨学生)</p> <p>ベトナム : チュ スワン ザオ ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員 (2006 渥美奨学生)</p> <p>フィリピン : ブレンダ テネグラ アクセンチュアコンサルタント (2005 渥美奨学生)</p> <p>イ ン ド : ランジャナ ムコパディヤヤ デリー大学准教授 (2002 渥美奨学生)</p> <p style="text-align: center;">【第 3 部】 質疑応答</p> <p>会場およびオンライン参加者 (Zoom チャットで質問・意見を募集。懇親会でも継続)</p>
15:10~15:40	
15:40~16:20	
16:20~17:00	
17:00~18:00	ご希望の方々による懇談会

講演要旨：「国際的観点から見る日本の新型コロナウイルス対策」

大曲貴夫（おおまがり のりお） 国立国際医療研究センター 国際感染症センター長

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）は、新しく発生した感染症としてその診断、治療、感染防止対策が医療上の大きな課題となっている。そればかりでなく、この感染症が社会全般特に経済に及ぼす影響は極めて大きく、COVID-19の影響が今後数年以上継続すると予想されているなかで、この脅威に社会としてどのように対応するかは国際的な大きな課題となっている。日本では1月に患者発生が始まり、3-5月には第一波と呼ばれる多数の重症患者の発生に対応してきた。そして6月以降は軽症患者を中心とした新たな波への対応を迫られている。今回の講演では日本の現状と、今後この感染症にどのように向き合っていくべきかについて、私の意見をお伝えしたい。

講師略歴：大曲 貴夫（おおまがり のりお）

国立国際医療研究センター国際感染症センター長

理事長特任補佐、DCC 科長感染症内科医長併任

佐賀医大医学部卒業／聖路加国際病院内科レジデント

2002年 テキサス大学ヒューストン校内科感染症科クリニカルフェロー

2004年 静岡県立静岡がんセンター感染症科医長、2007年同部長

2011年 国立国際医療研究センター国際疾病センター副センター長

2012年 同国際感染症センター長

国立国際医療研究センター病院 AMR 臨床リファレンスセンター長（兼任）



司会・各国リポーター紹介：

《司会》 尹在彦（ユン ジェオン）

一橋大学大学院 国際関係論専攻/元新聞記者（毎日経済新聞・韓国）（2020年渥美奨学生）

リスク・コミュニケーションや経済・移動制限政策を中心にコロナ時代における国際社会の変容をウォッチしている。

《リポーター》

韓国：金雄熙（キム ウンヒ）

仁荷大学国際通商学科教授（1996年渥美奨学生）。筑波大学博士（国際政治経済学）。国際通商論を専攻するが国際政治経済、グローバリズムの展開も研究領域としている。

台湾：陳姿菁（チェン ツチン）

開南大学副教授（2002年渥美奨学生）。お茶の水女子大学博士（日本語教育）。日本語教育、中国語教育等の学習評価に焦点を当てている。

ベトナム：チュ スワン ザオ

ベトナム社会科学院文化研究所上席研究員（2006年渥美奨学生）。総合研究大学院大学博士（文化人類学）。

新型コロナウイルス感染症を背景に疫病と人類の文化・宗教との関わりに注目している。

フィリピン：ブレンダ テネグラ

アクセンチュアコンサルタント・チームリード（2005年渥美奨学生）。お茶の水女子大学博士（社会学）。

ジェンダー、海外出稼ぎ労働者、送金の複層的政治に関心がある。

インド：ランジャナ ムコパディヤヤ

デリー大学准教授（2002年渥美奨学生）。東京大学博士（宗教社会学）。現在、ポストコロナ時代における人間関係と教育問題に焦点を当てている。

## 参加にあたってのお知らせ

会場での参加について：（渥美国際交流財団の渥美財団ホールが会場になります）

定員 15 名	3 密を防ぐため、会場参加者の定員は 15 名とします。定員になり次第締め切ります。
参加申込	<a href="#">こちらよりお申込みください</a> （第 14 回 SGRA カフェ参加申込受付画面から） ※ 参加申込していただいた方へは受付完了メールが自動配信されます。
問合わせ	SGRA 事務局 <a href="mailto:sgra@aisf.or.jp">sgra@aisf.or.jp</a>
会場案内	※ 渥美財団へのアクセス（地図）は、 <a href="#">こちら</a> でご覧いただけます。

オンライン（Zoom）参加について：

参加申込	<a href="#">こちらよりお申込みください</a> （第 14 回 SGRA カフェ参加申込受付画面から） ※ 参加申込していただいた方へは受付完了メールが自動配信されます。
問合わせ	SGRA 事務局 <a href="mailto:sgra@aisf.or.jp">sgra@aisf.or.jp</a>

質問とご意見について：

質問と意見を募集します	<p><b>【ディスカッションを盛り上げるために、質問や意見を当日募集します】</b></p> <p>※ 参加者との質疑応答や意見交換は、「懇親会」で行います。 寄せられたご質問やご意見の中から司会者が選び話題にします。</p> <p>※ オンライン参加の方は、Zoom のチャット機能を使用し、お名前とご質問やご意見を簡潔に書き込んでください。</p>
-------------	---

その他：

注意事項	<p><b>【マイクとビデオについて】</b></p> <p>Zoom 参加の際は、雑音を避けるため、マイクをミュート（音が入らない状態）に設定してください。発言する時にはマイクとビデオ ON にしてください。</p> <p><b>【その他】</b></p> <p>講師による発表資料は画面共有機能で投影いたします。 また、会場ではスライドで投影いたします。</p>
事前接続テストを実施します	<p><b>【事前接続テスト】</b></p> <p>2020 年 9 月 7 日（月）15:00～16:00 に Zoom の事前接続テストを実施いたします。</p> <p>※ テストをご希望の方は、SGRA 事務局（<a href="mailto:sgra@aisf.or.jp">sgra@aisf.or.jp</a>）へ参加申込メールアドレスをお知らせください。担当者より折り返しご連絡差し上げます。</p> <p>※ 接続方法、ミュート機能の ON/OFF の切り替え、チャットの見方などについてご不安な方はどうぞお気軽にこの機会をご活用ください。</p> <p>※ テスト時間内であればいつでも接続、参加可能、出入り自由です。</p>

以 上